令和元年度 全国学力・学習状況調査から見える王寺町の児童生徒

はじめに

王寺町の児童生徒の学力・学習状況における教育課題を明らかにし、学校・家庭・地域が一体となって連携・協働することにより、その課題克服に向けて取り組むために調査の分析結果を公表します。

1 調査の概要

〇調査の目的

・児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。

・本調査の結果を児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

・このような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

〇調査実施日　平成31年4月18日（木）

〇調査対象　王寺町立小学校のすべての6年生、王寺町立中学校のすべての3年生

〇調査内容　基礎的な「知識理解」を問うA問題と、応用力を測る「活用」に関するB問題を今回から統合することになりました。

①<u>教科に関する調査</u>　小学校【国語、算数】

中学校【国語、数学、英語｛聞くこと・読むこと・書くこと」と「話すこと」】

※ 全国学力・学習状況調査が平成19年度から開始され今回で13年目の実施となりました。過度な序列化を防ぐため、平成29年度から、自治体別の平均正答率は、小数点以下を四捨五入し、整数値で示されるようになり、政令市ごとの平均正答率も公表されるようになりました。
平成22年度と24年度は全体の3割程度の抽出調査、平成23年度は、東日本大震災の影響等で全国的な実施は取り止めとなったため、全児童生徒を対象とした悉皆（しっかい）調査は今回で10回目となります。
<u>今年度初めて英語調査（4技能）が行われ、「話すこと」調査は、各学校のPCを活用した音声録音方式で実施されました。英語の調査は3年に1度実施されます。</u>

②<u>生活習慣や学習環境等に関する調査</u>【質問紙調査】

※ 学校に対する質問紙調査は、小学校64項目、中学校80項目。児童生徒に対する質問紙調査は小学校58項目、中学校69項目ありました。今回調査された英語に関する項目もありました。

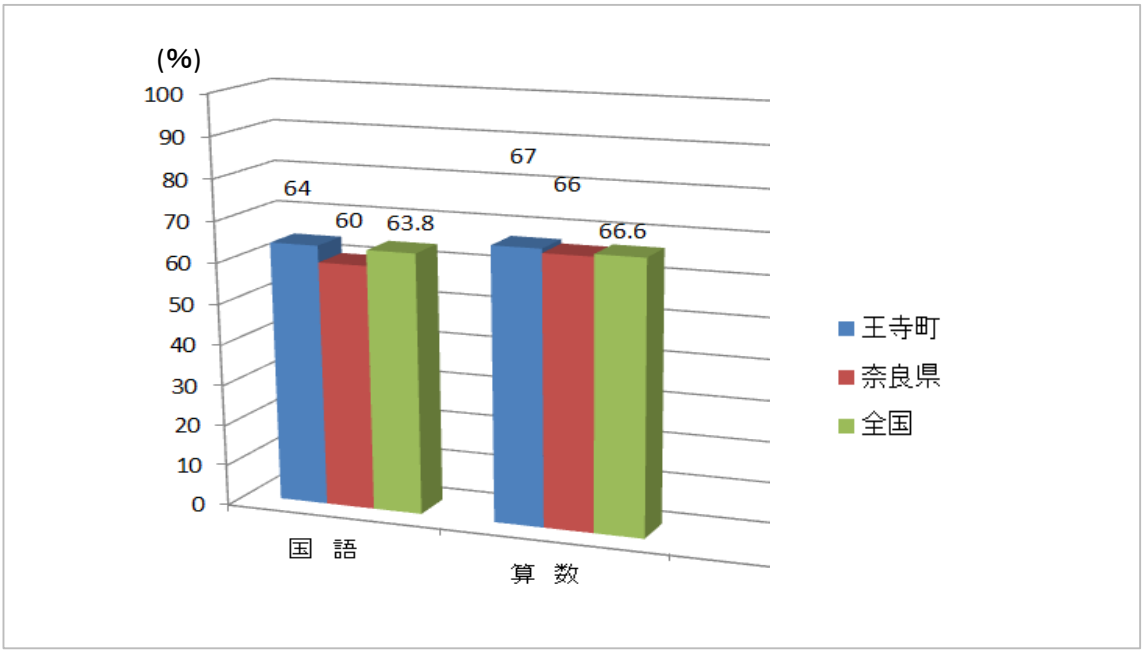
2 調査結果の概要

（1）教科に関する調査結果

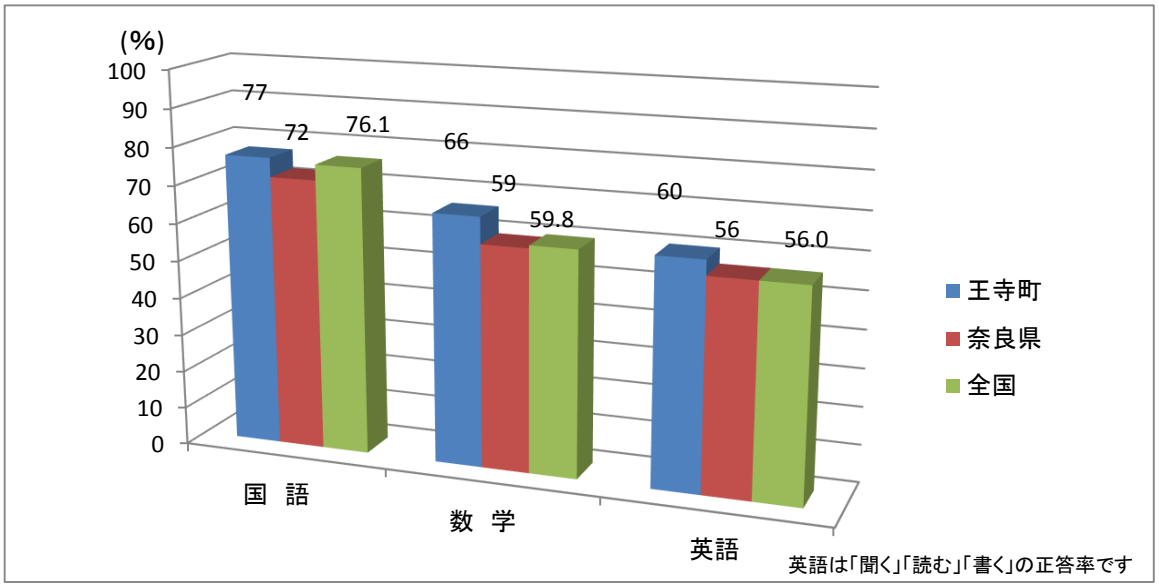
調査結果を学校種別・教科別に王寺町・奈良県・全国の平均正答率を比較しました。

【この調査結果における平均正答率等は学力の特定の一部分を表わしたものであり、学校における教育活動の一側面となります。】

小学校：国語、算数の平均正答率



中学校：国語、数学、英語の平均正答率



＜＜全般的な出題内容と全国的な傾向・課題＞＞

【全体】

◇　平成29年3月に公示された小・中の新学習指導要領では、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という三つの柱に基づいて再整理されており、これらは相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っています。

◇ 平成31年度4月以降の調査問題では、こうした新学習指導要領の考え方への理解を促すため、従来の「主として『知識』に関する問題」（A問題）と「主として『活用』に関する問題」（B問題）に区分するといった整理を見直して、一体的に調査問題が構成されています。

◇ 都道府県別の公立校の標準化得点（年度ごとの全国平均正答数を100と換算し、標準化した得点）がこれまで下位層であった都道府県の学力が底上げしてきている傾向にあります。王寺町としては、全教科で全国平均を上まわりましたが、奈良県は、残念ながら小・中学校の全教科において、課題の残る結果となりました。

◇ 自分の考えをまとめて書き表したり、複数の資料から傾向などを読み取ったりする問題の正答率が低く、理解力はあっても、活用力や表現力などに課題があるといえます。
表現する力をいかに育てるかが課題となります。

【国語】

◇ 小学校では「相手に分かりやすく情報を伝えるための記述の工夫を捉えたり、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書いたりすること」に、中学校では「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつことや、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えること」に課題が見られます。

◇ 小学校では「公衆電話について調べたことをもとに、報告する文章にふさわしい表現で書く」という問題が出されています。
目的や意図に応じ調べたことを報告する文章を、図形やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように工夫して書くことを求めています。

◇ 中学校では、「海外に広がる弁当の魅力」という見出しの新聞記事から、文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもてるかを見る出題がされています。文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることができるかを求める出題もされています。

◇ 小中とも、「書くこと」に課題が見られ、資料の中から必要な情報を取り出すことはできていますが、伝えたいことを分かりやすく書くことに課題があります。必要な情報を論理的に整理して表現する力を育成する授業の工夫と、日常生活の中で本や新聞などの活字に触れ、自ら書く経験を積み重ねる必要があります。

【算数・数学】

◇ 小学校では「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述すること」
中学校では「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見いだし、説明すること」が課題です。

◇ 算数で、台形を用いて図形の構成と筋道を立てた考察を問う出題があり、長方形を直線で切ってできる図形や、二つの合同な図形を組み合わせてできる図形について考察したり、示された図形の面積を求める式を図形と関連付けて説明 したりする問題を設定してあります。

◇ 数学では、資料を整理した表から最頻値を読み取ることや、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明するという出題がありました。

◇ 算数・数学では、知識や理解を問う問題では高い正答率が得られましたが、複数のデータを読み取り、筋道を立てて経過を記述することや、事象を数学的に解釈し、説明することは苦手だと言えます。学校では問題を解くプロセスに重きを置き、子ども同士の話し合いで、多様な意見を引き出し深い学びに繋げていくことが必要です。

【英語】

◇ 今回初めて中学校で実施した英語の全国平均正答率は56．5％で、技能別に見ると「聞く」68．3％、「読む」56．2％、「書く」46．4％でした。
王寺町は、正答率60％で、「聞く」66．8％、「読む」60．1％、「書く」55．3％でした。

◇ 「話す」は、学校のパソコンなどを利用して実施しましたが、機器が整わず参加を見送った学校も全国ではありましたので参考値として集計した結果、30．8％でした。
4技能をバランスよく指導できるかが課題となります。

◇ 調査結果から、「英語を聞いたり読んだりする力はあるが、会話は苦手」という特徴が明らかになりました。

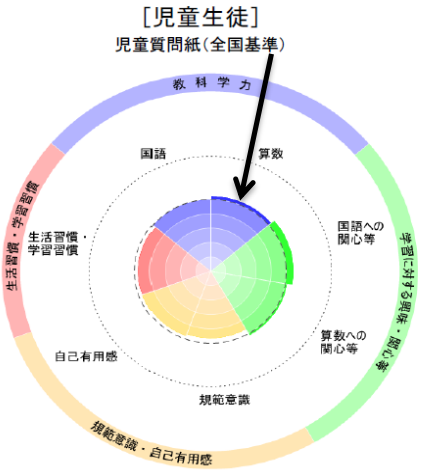
◇ 「話す」で出題されたのは5問。海外のテレビ局からインタビューを受けるという設定の問題では、考えをまとめるのに1分 、回答に30秒の時間が与えられています。

◇　最も正解率が低かったのは「ある写真を見ながら会話する2人のやりとりを聞き、内容を踏まえて会話が続いていくように英語で応じる」という問題です。解答時間は20秒で、即興でやり取りをする力が必要となります。

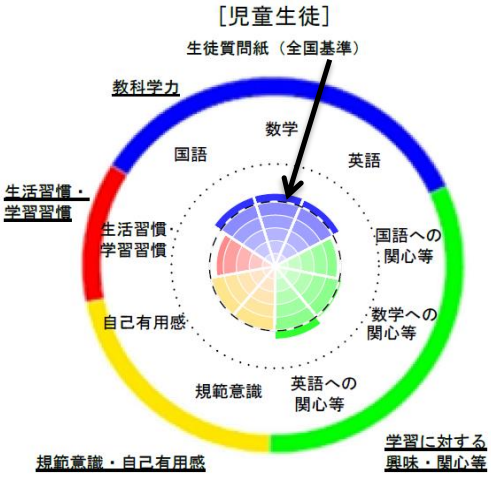
(2)学力・学習状況調査結果の概要

◇　王寺町の児童生徒の国語・算数・数学・英語の学力、算数・数学・英語への関心、規範意識、自己有用感、生活習慣・学習習慣等を全国基準と比較しました。小中学生共に、学力については比較的高位にありますし、教科への関心等も高いといえます。一方、小中学生の生活習慣・学習習慣と小学生の自己有用感については、全国基準より低位になっています。いずれの項目も高位になるよう、学校、家庭、地域が協力して取り組んでいく必要があります。

＜小学校＞

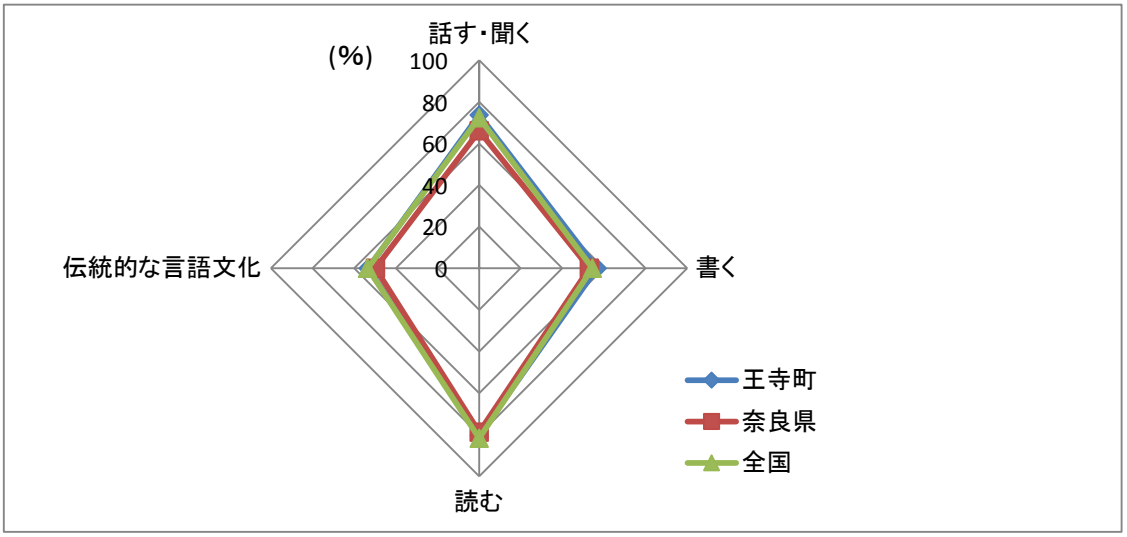


＜中学校＞



(3)学力に関する領域別調査結果

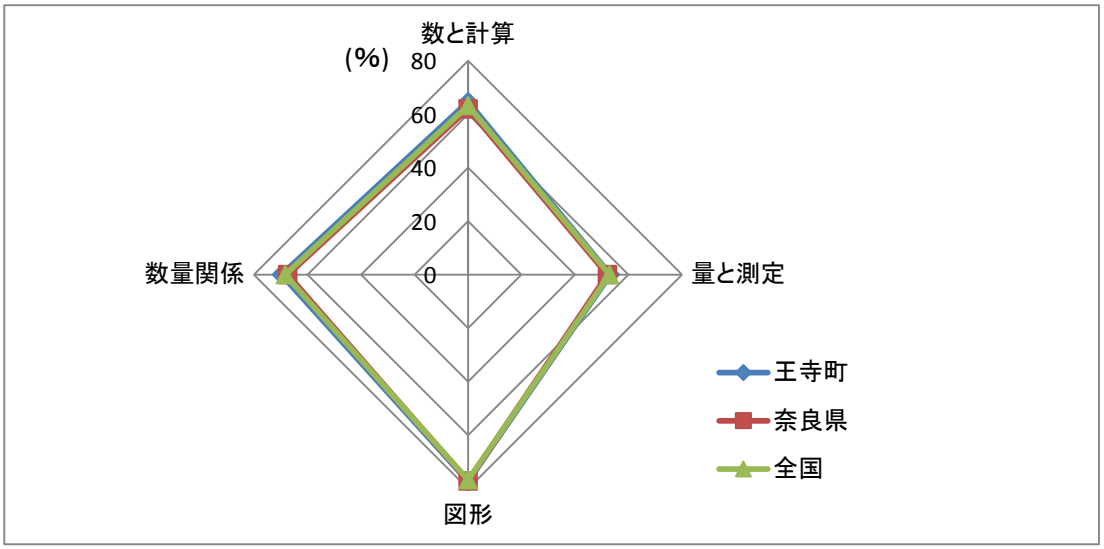
小学校　国語　　領域別正答率



【国語】

「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」問題の正答率は全国平均が30%未満で、王寺町の正答率はそれよりも下回りました。「漢字を文の中で正しく使う」問題では、「友達に**限**らず」は正答率　80%以上でしたが、「調査の**対象**」は36．6%、「**関心**をもって」は23．3%と、低い正答率でした。

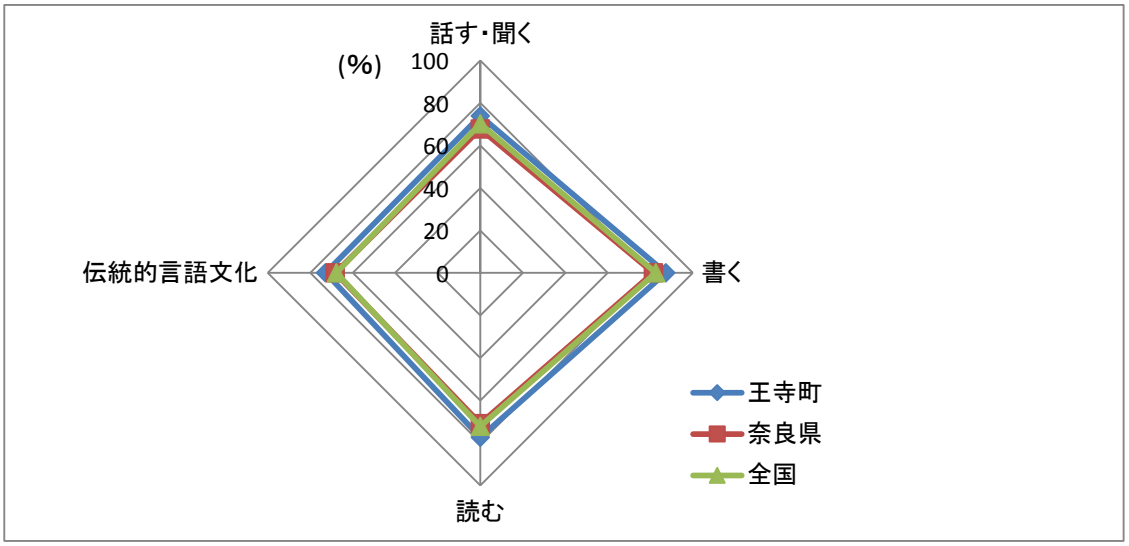
小学校　算数　　領域別正答率



【算数】

「台形について理解している」・「示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる」「場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる」問題の正答率が全国平均よりも高くなっています。また、「図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる」・「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる」・「示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる」問題の正答率は全国平均よりも低くなっています。複数のデータを読み取り、筋道を立てて考えた経過を記述する問題や、資料の特徴を把握し、数学的に処理する力に課題があります。

中学校　国語　　領域別正答率

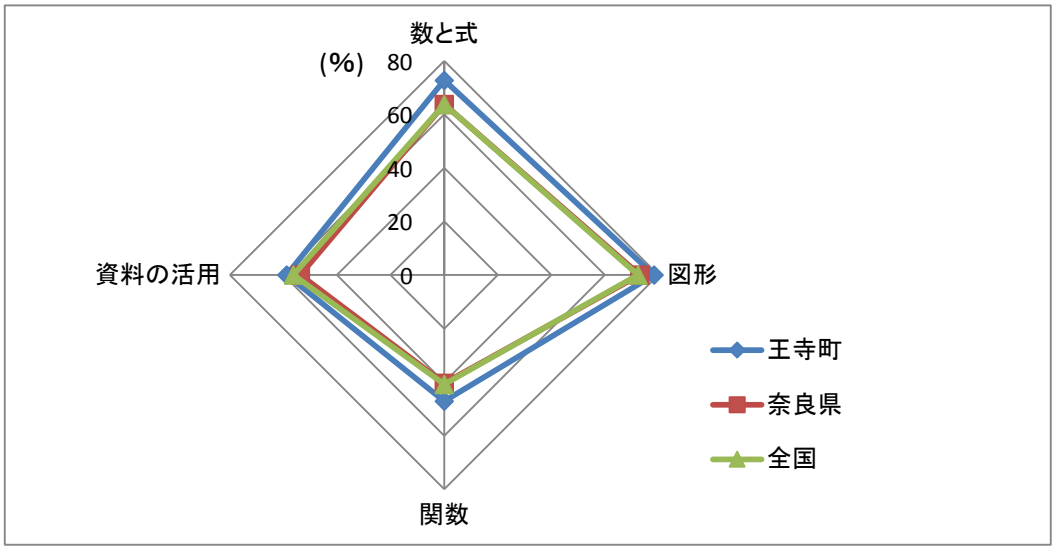


【国語】

すべての問題で、正答率が全国平均よりも高くなりました。

「封筒の書き方を理解して書く」問題の正答率は、全国平均よりも高い結果にはなりましたが、全問中では一番低いものになりました。伝えたいことについて、資料から根拠となる情報を取り出して正確に書くことはできていますが、文章に即して情報を整理し、内容を捉える力には課題があります。文章全体からきちんと情報を捉えることや、話し合いの要点や方向を踏まえて自分の考えをもつことにも課題があります。

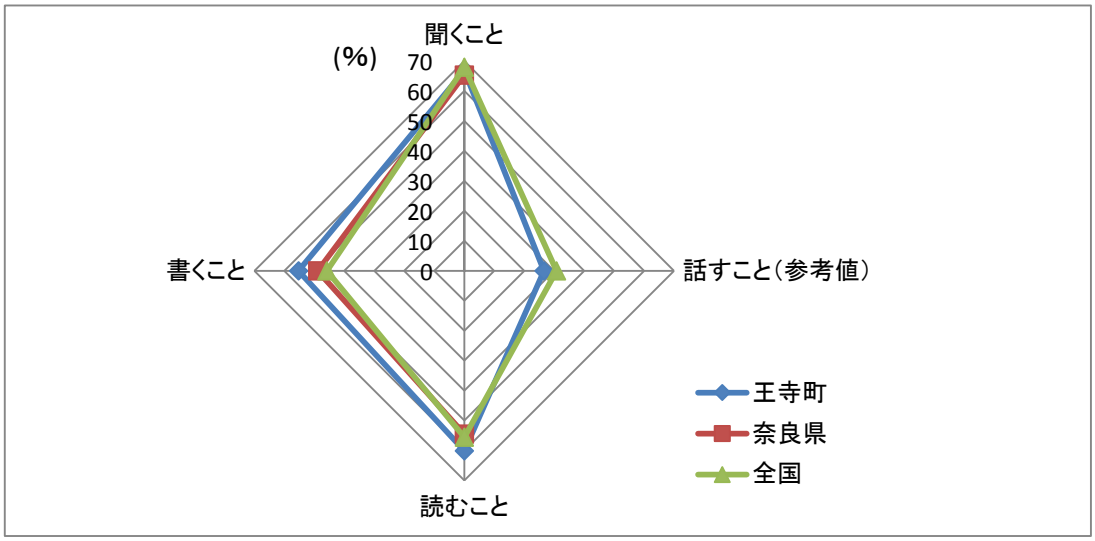
中学校　数学　領域別正答率



【数学】

全16問中、8割以上の問題が全国平均よりも良好であり、特に、「簡単な連立二元一次方程式を解くことができる」・「反比例の表から式を求める」「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見いだし、説明することができる」「与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる」「総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈する」問題の正答率は全国平均よりも随分と高い結果になりました。
一方、「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」は、全国平均と同様に、正答率が4割に満たない状況でした。「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」問題に、課題が残っています。

中学校　英語　　領域別正答率



【英語】

「聞くこと・書くこと・読むこと」では、全国の平均正答率よりも4ポイント高い結果となりましたが、「日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる」問題等、「読み取り」に弱さがあるという結果となりました。「与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる」では、全国の平均正答率よりも高い結果になりましたが、文法事項等を活用することには課題が残りました。
「話すこと」（参考値）は、全国の平均正答率よりも4ポイント低い結果になっています。問われていることが分かれば、自分の考えなどをなんとか伝えようとする粘り強さや意欲が見られましたが、いつ自分の発話機会が訪れるか分からない状況で、話されているやり取りを聞きながら、即興で応じることに慣れていないという課題があります。

３　児童・生徒質問紙調査の経年変化

町立小・中学校の児童生徒に学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査が実施されました。
平成25年度～令和元年度の経年変化について整理し、その中から特徴的な項目を抜粋しました。

①【朝食を毎日食べていますか】

小学校では、経年の傾向としては97％前後の児童がほぼ毎日朝食を食べています。今年度も、この傾向に変わりはありませんでした。一方、中学校では、ほぼ毎日朝食を食べている生徒の割合は昨年度97％になっていましたが、今年度は85．8％に減少しました。

②【学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしていますか】

例年の傾向として、2時間以上勉強している児童の割合は40％台前半で、全国平均より約10ポイント高く、2時間以上勉強している生徒の割合は50％台後半で、全国平均より20ポイント以上高くなりました。

③【学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間読書をしていますか】

児童生徒の読書時間の割合は、全国平均と比較しても特徴的な点はありませんでしたが、令和元年度「10分以上30分未満読書をする」生徒の割合は増加し、その割合は41．4％までになり、全国平均を18ポイント上まりました。

④【今住んでいる地域の行事に参加していますか】

例年の傾向として、地域行事に参加している児童生徒の割合は、全国平均よりも高くなっており、年々その差も広がっています。平成31年度の「参加している＋どちらかといえば参加している」割合は、児童で80％、生徒で78％になりました。生徒の割合が上昇しています。

⑤【新聞を読んでいますか】

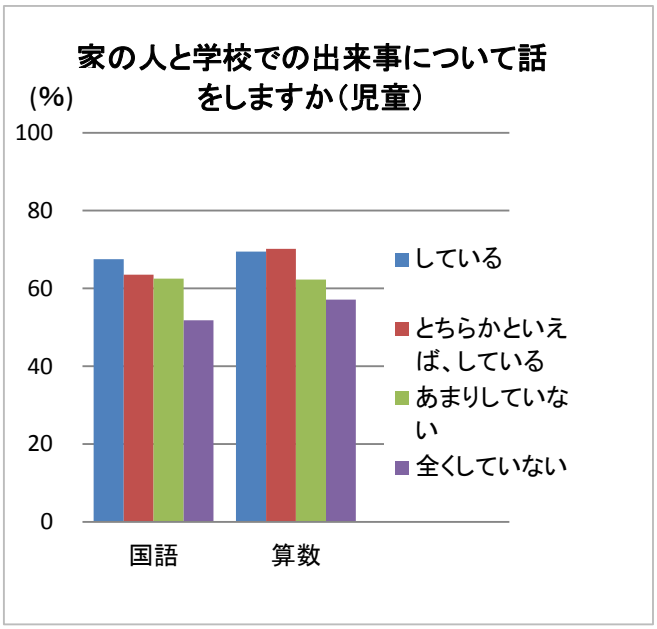
「ほぼ毎日読んでいる＋週に1～3回読んでいる」と回答した割合は、平成29年度から増え始め、令和元年度は児童約25％、生徒約50％になりました。児童は全国平均よりも4ポイント低いですが、生徒は約40ポイントも高くなっています。

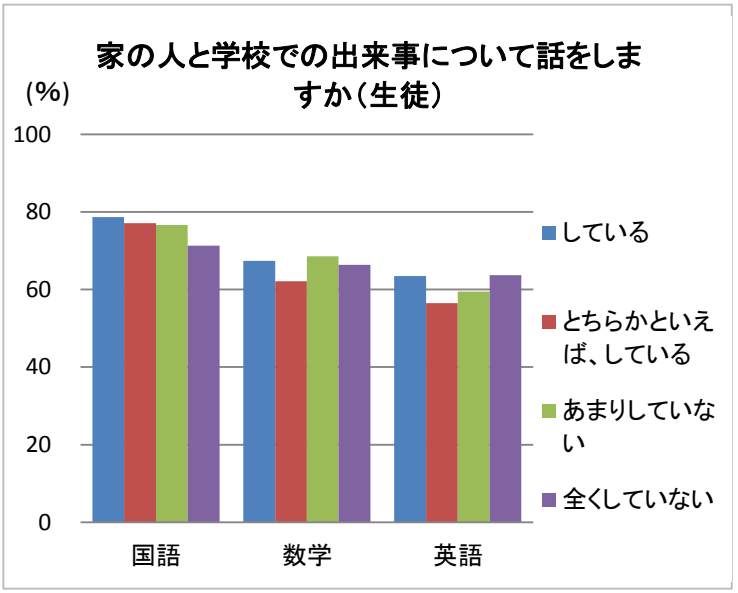
新聞を読んでいる割合が伸びない背景として、新聞を定期購読している家庭が減ってきていることが考えられますが、王寺町では、平成28年度から小・中学校の各教室（小学校は5・6年生の教室）と学校図書室に新聞を配置し、各学校がNIE（Newspaper In Education＝学校で新聞を教材として活用する）教育に力を入れていることが、一定の効果をもたらしていると考えられます。

４　家庭への提案

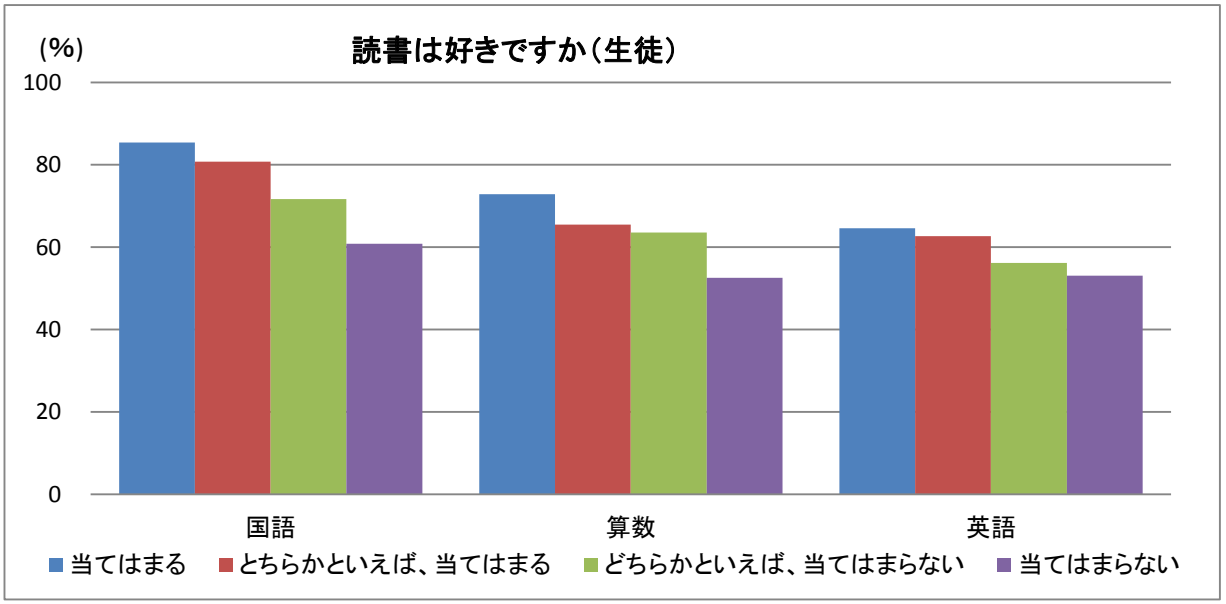
児童生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査と国語、算数（数学）、英語の各教科正答率との間に相関関係が見られる項目がありますので、今後、お子様の家庭生活を見直す資料にしていただきたいと思います。

＜＜質問紙調査と各教科正答率との間に見られる特徴的な相関関係＞＞

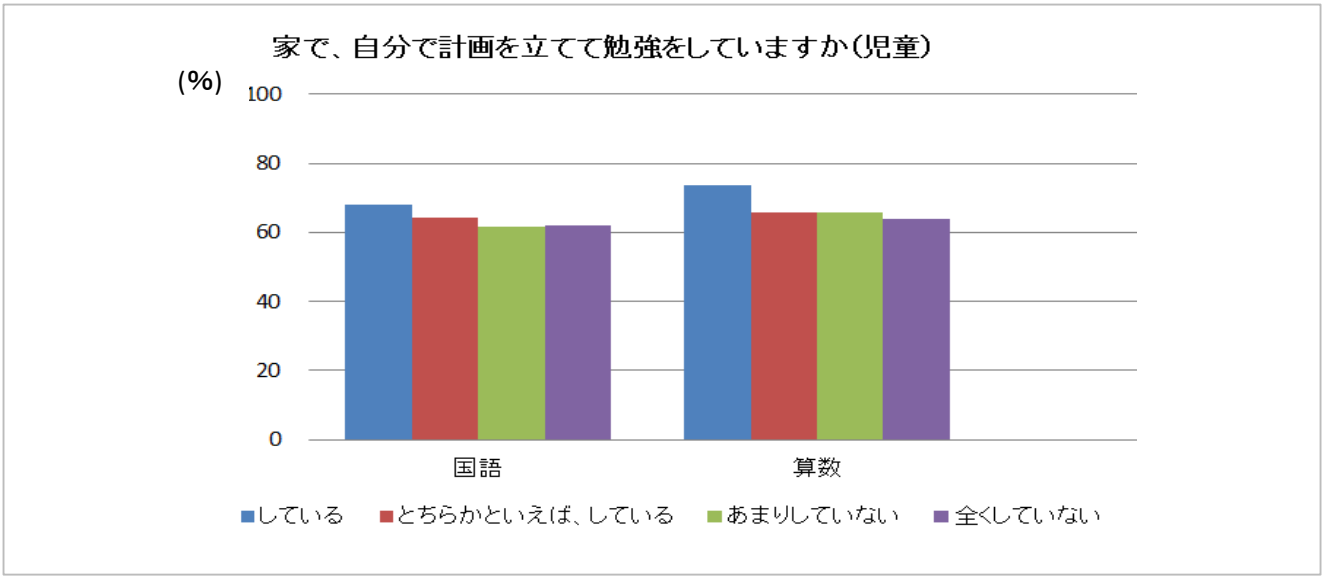




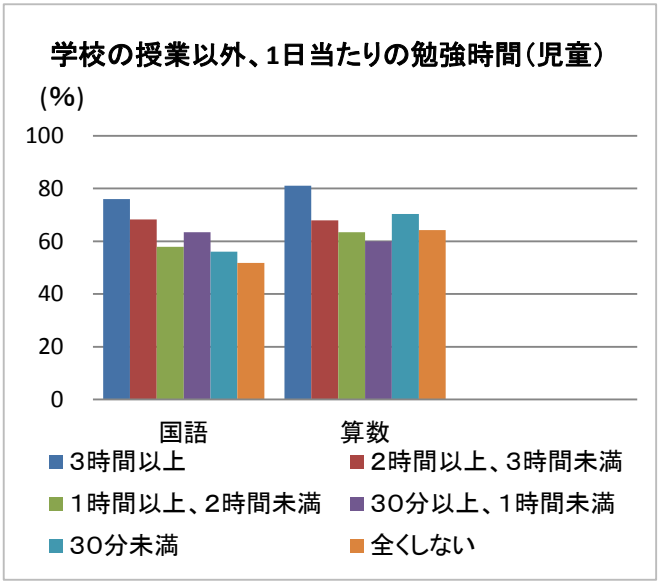
家の人と学校での出来事について話す児童・生徒は、特に児童で正答率が高くなる傾向があります。

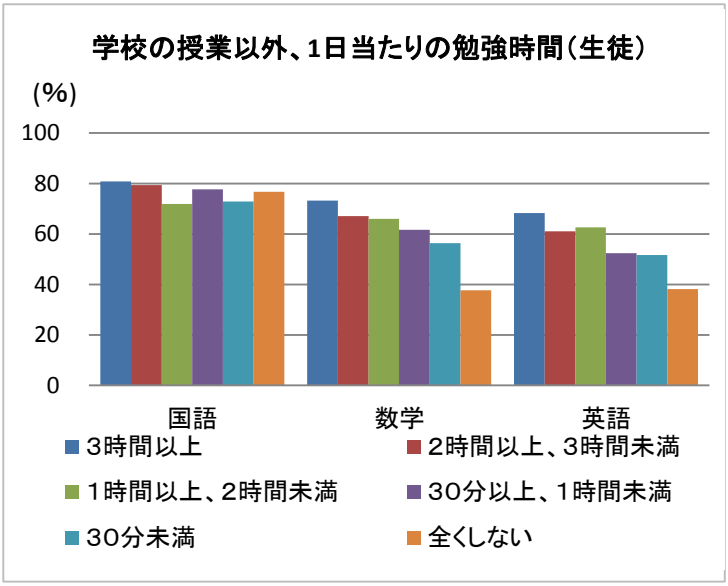


読書が好きな生徒は、正答率が高い傾向があります。児童については、全体の読書率が低いためか読書好きな児童の正答率は、やや高いという結果になっています。

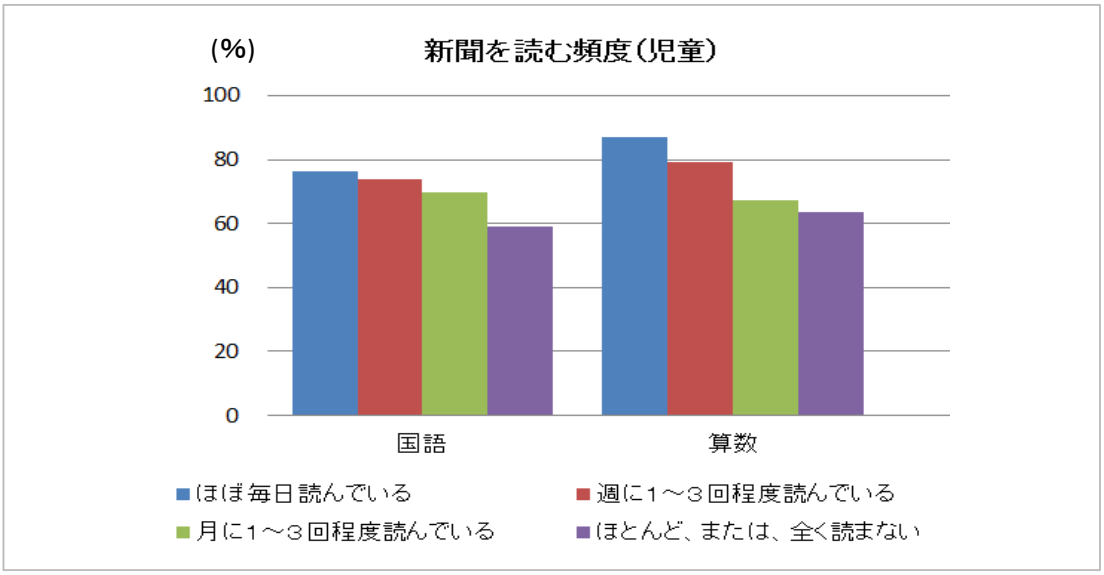


家で、自分で計画的に勉強している児童は、目的意識を持って効率的に学習しているので、当然のことながら各教科とも高い正答率を示しています。生徒については児童ほど顕著ではありませんが、同じ傾向が見られます。





学校の授業以外、1日当たりの学習時間をしっかり確保している児童と全くしていない児童の正答率の差は大きく、特に、生徒の場合、数学と英語の差が顕著になっています。



新聞を「ほぼ毎日読んでいる」＋「週に1～3回程度読んでいる」など読む頻度の高い児童の正答率が高く、「ほとんど、または、全く読まない」児童の正答率は、低くなっています。
生徒についても同様の傾向が見られます。

（注）新聞を「ほぼ毎日読んでいる」＋「週に1～3回程度読んでいる」割合は、児童約15%、生徒約51%でした。

5　王寺町教育委員会の取組

子ども達の学習への関心・意欲・態度、学習習慣、自尊感情、規範意識等をより醸成するために、王寺町教育委員会と幼稚園・小学校・中学校が連携して様々な取組をしています。また、以下の様に、学校教育分野だけでなく生涯教育分野も含め様々な施策を実施しています。学校をはじめ、家庭、地域、行政等が目標を共有しながら協力して取り組んでいます。

〇教職員研修の充実による教師力の向上

「分かりやすい授業」・「やる気を引き出す授業」を構築するための授業研究、ICT等を活用した指導方法の研究に加え、来年度から始まる新学習指導要領の内容を周知し、プログラミング教育をはじめ、教職員の指導力向上のための研修を奨励しています。

〇教育施設・設備の整備

幼児・児童・生徒が安全・安心で快適に学校（園）生活を送ることができるように、6月に全ての普通教室にエアコンを設置するなど、学校（園）施設・設備を整備し、教育環境の充実に努めています。

〇「学校いきいきプラン」事業の実施

各小・中学校に教員資格を持つ町費講師を加配し、児童生徒の学習レベルの向上、集団への適応能力の向上、特別支援教育、生徒指導等に効果を上げています。
（各幼稚園には特別支援教育に関わる講師を加配しています。）

〇学校・家庭・地域の三者連携による教育力の向上

「地域に開かれた学校づくり」・「地域の子どもを地域で見守る」・「子ども達の発達段階に応じた形で社会参加・社会貢献する」という3つの視点を大切にし、学校を拠点とした子ども達と地域の人々をつなぐ「学校・地域パートナーシップ事業」を実施しています。

〇挨拶運動の推進

王寺町あげての挨拶運動（「あいさつ＋１」運動）を実施し、日常的な挨拶を通して幼児・児童・生徒の規範意識だけでなく、社会性やコミュニケーション力を育んでいます。

〇外部人材を活用した教育活動の実施

幼稚園・小学校において、奈良学園大学をはじめとする近隣の大学生による授業支援学生ボランティア活動を実施しています。学生自身にとっても教育現場で経験を積むことにより、教員を目指した人材育成につながります。

〇読書活動の推進

豊かな感性や情操を育むため、各小・中学校全てに学校図書館司書を配置し、読書活動の推進を図るとともに、蔵書管理システムの導入や図書の購入等による学校図書館の充実を図っています。
10月からは「雪丸図書システム」を導入し、児童生徒自身が図書の貸し出しと返却を行えるようになりました。これまで以上に図書館や読書への児童生徒の興味・関心を高め、読書習慣の育成につながることを期待しています。

〇幼稚園、小学校、中学校を通した外国語（英語）教育の実施

町内全ての幼稚園では英語体験保育、小学校では低学年から外国語（英語）教育に力を入れています。幼稚園と小学校にネイティブスピーカーである外国人講師を派遣するとともに、特に今年度は中学校英語教員を小学校英語専科教員として配置し、幼稚園～小学校～中学校まで切れ目のない外国語（英語）教育に取り組んでいます。
英語検定試検の受検対策講座を各中学校で実施し、英語検定各級受検に向け、個々の生徒を支援しています。

〇21世紀を生きる、子ども達のために

【プログラミング教育の実施】

IoTやAI、ビッグデータ等のテクノロジーが発達した社会を生き抜くために必要な、論理的思考や創造性、問題解決力などを育むために、既存の教科学習の中でプログラミング教育に取り組んでいます。

【個別最適化学習の実施】

児童一人ひとりの能力や適性に応じて個別最適化された学びの実現への取組を、小学校の算数科で始めています。今年度は王寺南小学校5年生を対象に取組んでいますが、来年度以降は今年度の成果を踏まえ、実施校や実施学年を拡大していこうと考えています。.

〇放課後学習支援事業として王寺町寺子屋塾（愛称：雪丸サポートスクール）の実施

小学4年生～中学3年生までを対象として、小学生は週3回各2時間ずつ、中学生は週2回各2時間ずつの王寺町寺子屋塾（雪丸サポートスクール）を実施しています。地域の経験豊富な人材を活用し、児童生徒一人一人の学力及び学習意欲の向上と学習習慣の定着を図り、地域教育力の強化を目的として実施しています。

６　保護者・地域の皆様へ

☆「早寝、早起き、朝ごはん」が生活の基本となります。これからも規則正しい生活を続けましょう。

☆ 学校の授業で習ったことの復習と予習を中心に家庭学習の習慣を付けましょう。

☆「褒めて伸ばす」「認めて伸ばす」ことが自己肯定感の育成につながり自尊感情が醸成されます。

☆ 児童生徒の規範意識の向上には、学校・家庭・地域が欠かすことの出来ない大切な役割を果たします。規範意識の高い環境づくりに取り組みましょう。

☆ 家族で地域の行事やボランティア活動に参加し、社会で起こっている出来事を話題にするなどして、社会生活に関心をもち、社会参画意識を醸成するよう心掛けましょう。

☆ 「いじめ」があれば、毎日の生活の中に、これまでと違った行動や態度などが現れます。子どもにとって良き相談相手になりましょう。気持ちを受け入れることが大切です。

☆SNSは便利なツールですが、家庭内でルールを作って、安全に活用しましょう。